

結核・呼吸器感染症予防週間 9/24～9/30

世界では、結核で毎年100万人超、コロナで670万人(2020年～2022年)の人が命を落としています(出典 WHO)。コロナは令和5年5月インフルエンザと同じ5類感染症になりましたが、次のパンデミックへの備えとして、感染症への関心を持ち続けることが大切になります。

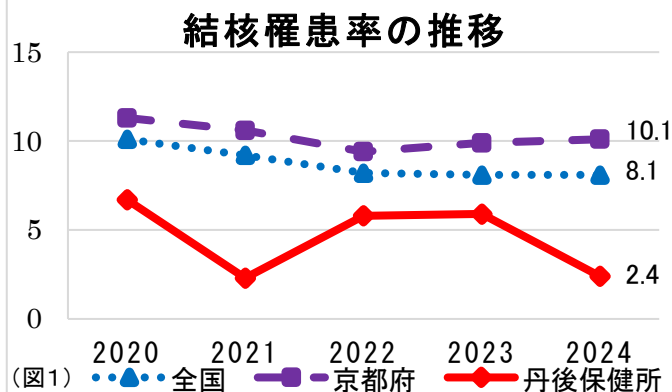
結核やコロナ、インフルエンザ等と同じ呼吸器感染症であることから、結核予防週間の対象を呼吸器感染症へ広げ、毎年9月24日～30日を「結核・呼吸器感染症予防週間」と定め、正しい知識の普及啓発を図ります。

※コロナ: 新型コロナウイルス感染症

■結核(丹後管内の概要)

表1 新登録結核患者数(潜在性結核感染症を除く)

	2020	2021	2022	2023	2024
丹後	6	2	5	5	2
全国	12,739	11,519	10,235	10,096	10,051

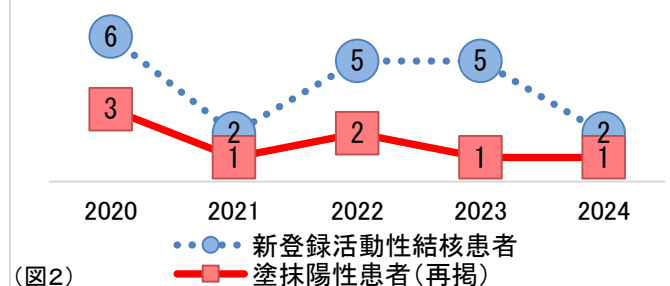


結核患者の発生は全国的に減少傾向にあり、2024年の全国の新登録患者は10,051人でした(表1)。

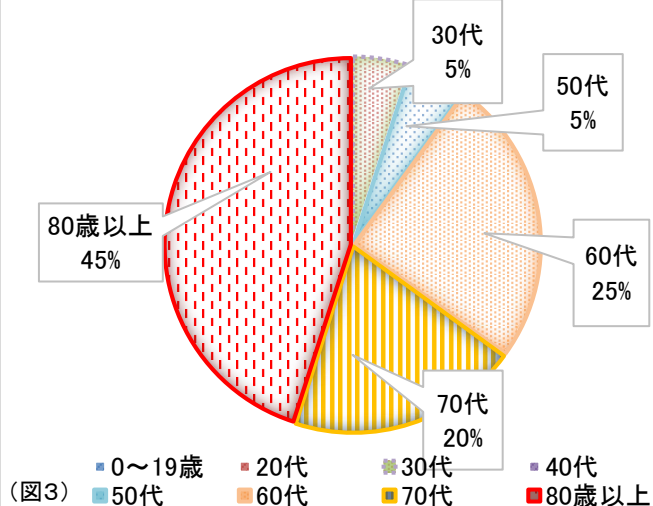
丹後管内の結核罹患率(人口10万人対)は、全国、京都府と比べ低い水準で経過しています(図1)。

丹後管内の活動性結核患者は、2024年が2人、内塗抹陽性患者は1人でした(図2)。

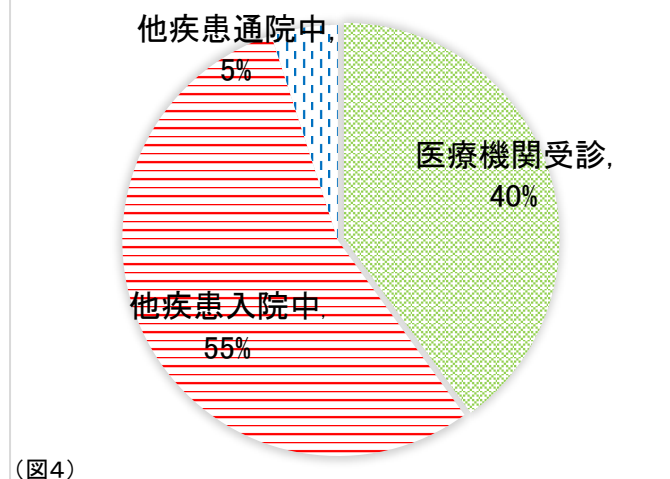
丹後管内新登録活動性結核患者数 (2020～2024)



丹後管内年代別(2020～2024)



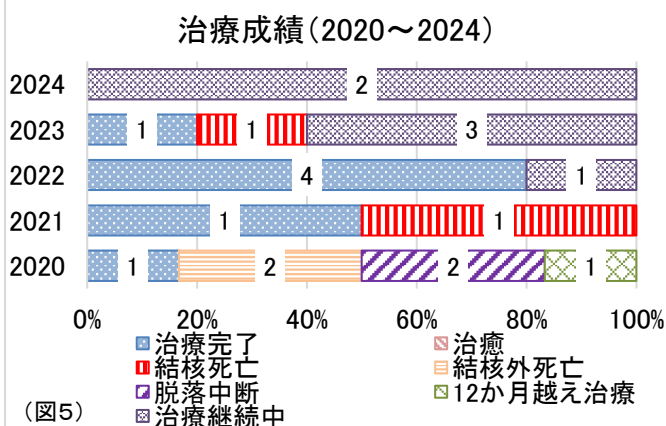
丹後管内発見方法(2020～2024)



丹後管内の結核患者は70歳以上が約6割を占めており、高齢者の発症が多い状況となっています(図3)。

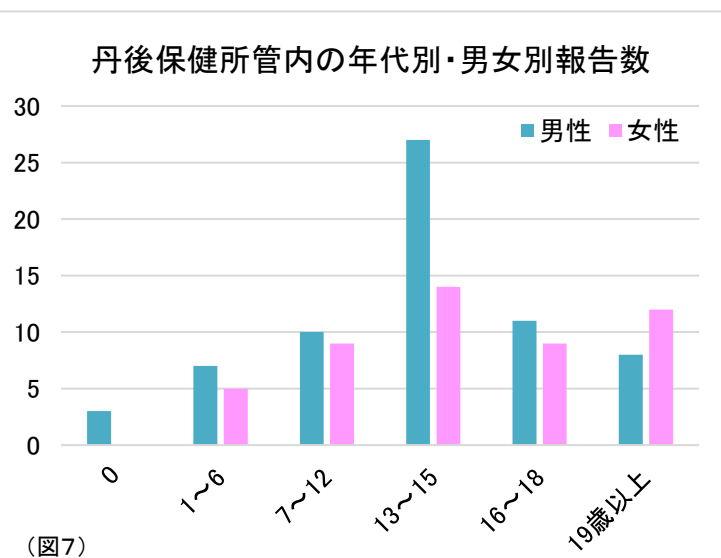
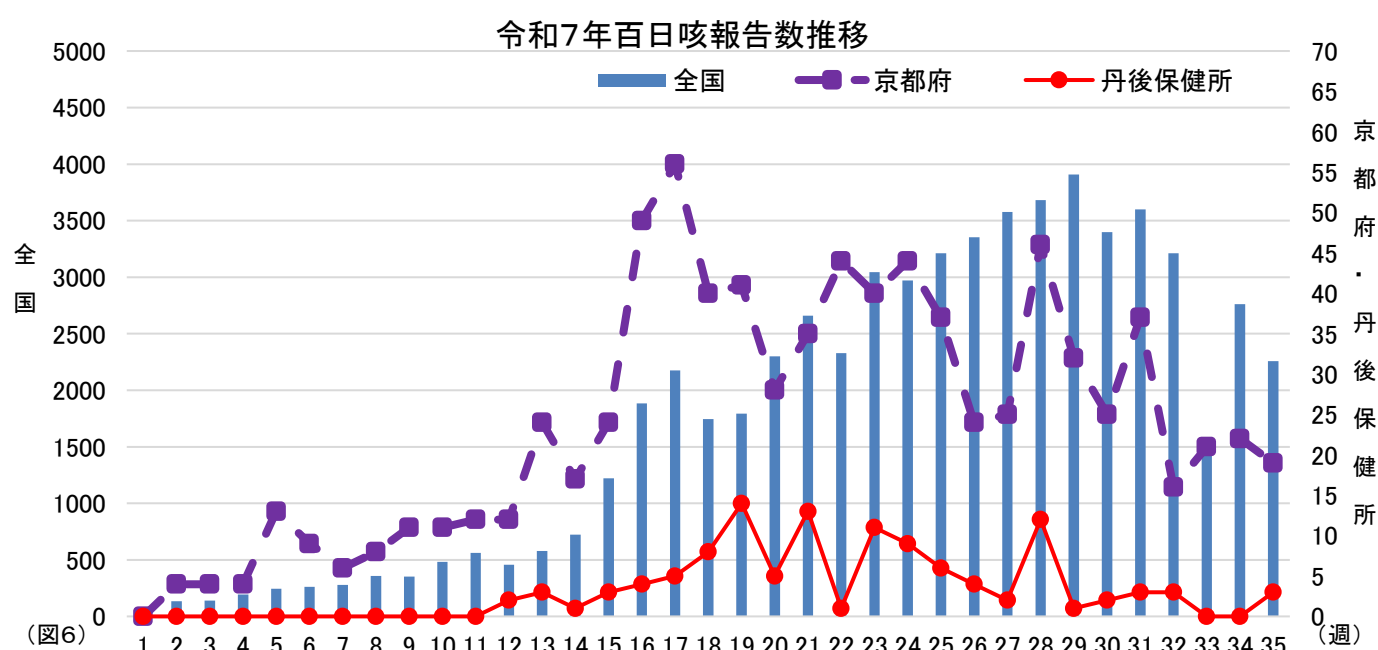
結核患者の発見方法は医療機関受診と他疾患入院中で約9割を占め、他疾患入院中の割合がやや高くなっています(図4)。

治療成績は治療完了が20人中7人と多い結果でした。なお、基礎疾患のある高齢者の治療が難しい状況にあり、結核死亡と結核外死亡を合わせると4人でした(図5)。



■百日咳(丹後管内の概要)2025年第1週～第35週

2025年は呼吸器感染症の1つである百日咳が全国で流行し、第15週から増えはじめ、第28週をピークに減少傾向となっています(図6)。年齢別・男女別で見ると13歳～15歳の男性が多い結果でした(図7)。



百日咳の由来

百日咳は、激しい咳が長期間続くことから名付けられました。英語では「whooping cough(うめき声のような咳)」や「pertussis(激しい咳)」と呼ばれ、いずれも症状の特徴を表しています。



2025 年感染拡大の理由

新型コロナ対策で徹底した感染対策が行われた結果、社会全体の免疫が低下したうえ、通常の生活に戻ったことで感染が広がりやすくなったと推察されています。さらに、百日咳ワクチンの免疫持続期間は4～12年であり、ワクチンの抗体価が低下する年代の中学生は、集団生活を送る中で感染が広がりやすくなっていると考えられます。

■急性呼吸器感染症(ARI)について

令和7年4月7日(第19週)から定点サーベイランスの対象となりました。

ARIとは、急性の上気道炎(鼻炎、副鼻腔炎、中耳炎、咽頭炎、喉頭炎)又は下気道炎(気管支炎、細気管支炎、肺炎)を指す病原体による症候群の総称です。具体的には、インフルエンザ、新型コロナウイルス、RSウイルス、咽頭結膜熱、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎、ヘルパンギーナなどが含まれます。

京都府丹後保健所(丹後広域振興局健康福祉部)

〒627-8570 京都府京丹後市峰山町丹波855

TEL.0772-62-4312 FAX.0772-62-4368